

日程第２に入る前に、一般質問に入る前に市長から発言を求められておりますので、この際、これを許します。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

一般質問の前の貴重なお時間をおかりいたしまして、一言ご報告申し上げます。

昨日、竹田教育長から、今月１２月末日をもって辞職したい旨の申し出があり、総合的に判断した結果、申し出を受理することといたしました。

また、本日８時４５分から臨時教育委員会が開催され、教育長の辞職が同意されました。今後は、早急に後任を選考し、１２月１７日の１２月定例会の最終日に新教育長の人事案件と関係する条例の改正案をご提案することといたしました。議会並びに議員の皆様方のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

日程第２．一 般 質 問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。〔４番 渡辺重雄君登壇〕

○４番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清政クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、１回目の質問をさせていただきます。

１、地方創生総合戦略の実施計画と進め方について。

国の今回の地方創生への取り組みには、従来の地方活性化政策には見られなかった切実感があり、今回の政策が失敗した場合、「地方消滅」さらには、地方だけでなく日本社会全体の維持が困難になるのではないかという危機意識が強く感じられます。

市では、総合戦略の推進に当たっては、成果を着実に上げていくため、チーム糸魚川による取り組みなど、市民との協働で取り組み、推進本部による実施状況等の把握、さらに産官学金労言などの参画による委員会を設置して、達成度を検証するとしております。

そして、ＰＤＣＡによる不断のサイクルで、より成果を重視した総合戦略の推進を目指すために、

目標を明確にして、市全体での目標の共有化と成果を重視した取り組みを展開するとして、市民や地域、行政がともに考え、ともに行動する協働の取り組みを強調しております。

確かに、今回の戦略は従来の延長線上では成果が期待できないと考えており、具体的に今までとどこを変えて推進するのか、現在の各組織との連携や生かし方についてどのように考えているのか、また、糸魚川市にとって、新たな視点での、新たな組織の必要はないのかなど、より具体的な推進体制や進め方が成否の重要なカギを握っていると考えております。

そこで、各機関組織との連携など、取り組みの手法と市民力を生かすために、若者会議と市民大学制度の提案を含めてお伺いをいたします。

(1) 事業の実施計画、推進体制、進行管理と推進方法について。

今後5年間の実施計画と事業を進める推進体制は、さらに事業や数値目標・KPIの進捗状況の検証はどのような体制、頻度で行う予定をしているかなど、進行管理と推進方法について伺います。

(2) 産官学金労言の各組織との連携と関わりについて。

今回の計画策定にあたっては、産官学金労言の各組織との意見交換などを通じて総合戦略を取りまとめたことから、実施段階での産官学金労言の各組織からの大きな協力を期待しているが、具体的な連携と関わりについて伺います。

(3) チーム糸魚川との連携と関わりについて。

チーム糸魚川は30年後も持続可能なまちづくりに向けて、糸魚川が一丸となって取り組む組織として発足しており、チーム糸魚川の真価を発揮する場と捉えているが、どのような連携と関わりを考えているのか伺います。

(4) 各行政区及び地区公民館との連携と関わりについて。

両組織は地域に共通する課題をお互いに協力して解決しようと様々な活動を行っており、この市民生活の拠点との連携は地方創生で最も重要であり、地域住民のための事業などでどのような連携を考えているのか伺います。

(5) 集落支援員、地域おこし協力隊、地区担当職員の役割について。

この3つの制度は地域の課題に対処するための制度であり、地方創生の趣旨から見ても最前線の重要な位置にあると考えており、地方創生での役割を明確にし、施策に結びつけた動きを期待しますがいかがですか。

(6) 未来の担い手育成と地方創生対応のために若者会議の設置を提案。

若者の意見や提言を市政に十分反映させ、若々しい感性と力強いエネルギーを取り入れながら、若者との協働によるまちづくりと地方創生を進めていくため、若者会議の設置を提案しますがいかがですか。

(7) 市民の資質の向上と地域創生対応のために市民大学制度の導入を提案。

地方創生の人口問題、地域振興問題などは、市民一人ひとりとの協働により発展させる必要を感じており、各種の課題への取り組みが一過性で終わらないよう地域教育の場として「市民大学制度」の導入を提案しますがいかがですか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、総合計画の実施計画に計上して進めていくこととなり、重点的に取り組む事業や複数課にまたがる事業などについて庁内委員会を設置して取り組んでまいります。

また、外部委員会としてチーム系魚川の団体を中心とした産官学金労言による仮称、総合戦略推進会議を設置し、より効果的に取り組みを進めるとともに数値目標の達成や進捗の状況を検証してまいります。

2 点目と3 点目につきましては、総合戦略の策定に当たり、チーム系魚川の協力のもと、さまざまな団体と意見交換をしてきており、引き続き意見交換を進める中でお互いの役割を確認し、さらに連携を深めて市民一体となって総合戦略に取り組んでまいりたいと考えております。

4 点目につきましては、市民活動の拠点である公民館と行政区の連携は、不可欠なものと考えております。地区公民館を拠点として、地区の皆様がさまざまな課題解決に向けた活動を行えるような拠点性の向上を図りたいと考えております。

5 点目につきましては、集落支援員は中山間地域の課題やニーズへの対応、地域おこし協力隊は地域活性化に関する特定された任務の実行、地域担当職員は地域と行政のパイプ役という役割をそれぞれが担い、それらを主に相互に連携をし、地域活性化の施策に結びつけたいと考えております。

6 点目につきましては、青年会議所と市の若手職員による意見交換会を9月に開催したところであります。今後、このような会議の開催に向けて準備を進めてまいります。

7 点目につきましては、地域づくりは人づくりであり、人材育成が大切であると考えております。現在、能生地域の上南地区公民館では、上南大学教養講座を開設して、地域の振興に向けた活動を行っておりますので、これを参考にして広めてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4 番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは2 回目の質問をさせていただきます。

まず1 点目の事業実施計画、推進体制、進行管理と推進方法についてであります。

米田市長は、平成27年度の施政方針の中で北陸新幹線開業というビッグチャンスを最大限に生かしながら国の地方創生の動向を的確に把握しつつ、最重要課題である交流人口の拡大と人口減少に対する取り組みをさらに進めていかなければならないとしておりましたが、その思いは、今回の総合戦略に反映できたかどうかお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

まさしく、我々は今そのような課題を抱えておるわけでありまして、それに対してのまちづくりという形で30年先も持続可能なまちづくりを進める中において、この地方創生の総合戦略につきましては、非常に追い風になったとも捉えとるわけでございまして、全てとはいかないまでも、その中でかなり取り込めたと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

私たちも、この平成27年度は、地方創生元年として地方にチャンスありというふうに捉えて、地方創生をいろんな場で議論してきたわけですが、このところ議会の特別委員会でも地域でもこの地方創生の動きが、なかなかひとところよりも動きがありませんので、この後、実はどうなるんでしょうねという声がいろいろ聞こえるものですから、あえて今回この質問のテーマにさせていただいたわけですが、この人口ビジョンと総合戦略をまとめたわけですが、これがスタートであるわけなので、これからどんな動きに入っていくのかお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

おはようございます。

今、議員言われたとおり総合戦略策定というのは、言われるようにスタートに立った時点というふうに思っております。やはり今予算編成のほうを進めておりますけれども、予算編成を通じていかに実践をしっかりと進めていくか、それがこれからの重要な部分というふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

総合戦略では、基本施策、個別施策、事業といったものが示されておりますけれども、この現段階では、細かい事業内容は示されていないわけでございますので、この後、実施計画といいますか行動計画なるものが立てられて、示すという予定はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

事業の実施計画でありますけれども、これについては先ほど市長答弁のとおり具体的な実施計画については、総合計画の実施計画としてまとめて進めたいというふうに考えております。

ただ、その上で実施計画や予算・決算の参考資料、そういったものをつくる際には総合戦略の該

当事業がわかるような表示、そういったものをしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから、今回の人口ビジョンと総合戦略の完成版ということになるんでしょうけども、どれぐらいの範囲の方々にこれをお渡ししてあるのかどうか。また、お渡しした後の反応というのはどんな感じなのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

人口ビジョン、総合戦略の配付先ですけれども、今までいろんな形で意見交換してきた団体、それら全てに配付しておりますし、総合計画等の配付先の団体についても全て配付しております。そのほか、ホームページでも公開しておりますし、概略版という形ですけれども、広報等にも掲載したところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

反応はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

大きな反応といたしますか、こういったものをつくっていただいてありがたいという声もいただいておりますけれども、まだ具体的なものについてはこれからというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今回のこの総合戦略が、国でどのようなチェックを受けるのかよくわかりませんが、この国の評価の度合いにかかわらず、これだけ大勢の方たちの手で作成したわけですので、国の予算がつく、つかない、あるいはつかなくても実施するという心構えでやってるというふうに私は思っておりますが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

当市にとりまして、人口減少対策というのは、この地方創生以前から大きな課題でありまして、取り組みをしたところであります。そういう中におきまして、今回の地方創生ということで総合戦略まとめたわけでございますが、国の流れも受けながら市として総合戦略を基本に国の支援がある、ないはかかわらず進めていかなければならないと思っております。

ただ、最大限に国の支援の得られるものは、最大限活用させていただきたいというふうに進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それから、基本目標やK P Iの進捗状況の検証ですけれども、先ほどの答弁で委員会を設置して成果を着実に上げていく体制を整備するというふうなことでありますが、もう少し詳しく教えていただけませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回の総合戦略では、K P Iと言われる重要業績評価指標が設定されております。その達成度によってチェックできるようになっておると。

ただ、その反面、適切なK P Iが設定されてないとしっかりした評価ができないということで、K P Iの見直しをする中で各事業についても成果指標を設定し、事務事業評価などを活用して見直し、改善していきたいと考えております。

また、チェックの見直しについては、各団体との意見交換も踏まえて行う予定であります。国のほうからもこのK P Iのチェックについては、産官学金労言による組織を設置するよう求められておりますので、チーム糸魚川の加盟団体も相談する中で、チェックだけでなく推進も担えるような（仮称）総合戦略推進会議、そういったものを設置する中で、チェックと推進に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

また、それから、議会の地方創生特別委員会で今回の総合戦略の策定作業を進めるに当たり、8月に、関係する事業に関して今までの事業の事業評価シートを出していただいているわけですが、

過去の政策の検証を、その結果、いずれもかなり事業評価がいいんですよね。

しかし、そうだとすると、これまで行政でさまざまな対策を講じてきたわけですが、大局的には糸魚川市の人口流出がとまらない。また、少子化に歯どめがかかっていないわけではありますが、この事業評価とのギャップですよ、その辺はどんなふうに捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当市においては、今までも人口減対策というのは進めてきたわけでありまして。一例とすれば、子ども一貫教育であったり、ジオパーク活動の推進、子育て環境の整備や地域づくりプランの推進ということで、ある意味、合併後進めてきたことは、ある意味、本当先を行く取り組みでもあったんでないかなというふうに考えております。その上で今回の総合戦略では、さらに既存事業のブラッシュアップや移住の促進のための新規事業にも取り組むこととしております。

ただ、その上でやはり大きな課題もあるのかなというふうに考えております。

1つは、やはり住民意識の醸成、そういったことも重要であるというふうに思っております。特に、親の考えが子供たちの進路に大きく影響しているということも事実でありますので、市民みんなで進めるという当事者意識の醸成が重要であるのかなと考えております。

それともう1つは、やはり東京一極集中の是正を国全体でどのような形で実現できるかということも大きな課題であると考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今回の地方創生は、とにかく成果が求められてますよね、成果が必要だと。私、この成果を上げるにはということで、まちづくり公社、あるいは振興公社など目的に立ち向かう機関といいますが、実施を第一義にする機関が一番有効だというふうに委員会で設置の提案をさせていただいておりましたけども、各課やチーム糸魚川の対応で大丈夫だというふうなことでありましたけども、これで大丈夫なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

今回の総合戦略については、いろんな角度から検討して進める必要があるというふうに思っております。当面は各課なり、チーム糸魚川なりいろんな団体との連携、それから地域づくりプランを進める中で進める必要があるというふうに考えておりますけれども、やはりそういう中でそういった議員提案のものが有効であるということであれば、そういったことも選択肢の1つとして考えていかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

いずれにしても、地方創生の取り組みを継続的に行うためには、地域一体となった実施体制、これを構築しなきゃいけないわけですが、改革的というよりも、本当にそれ以上の革命的とも言えるような体制がとれないとなかなか成功しないんじゃないかというふうな感じも持っておるんですが、それは私だけでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

革命的な取り組みがいいのかどうかというのは、微妙なところなんですけれども、やはり市民みんなが、やはり人口減少ということが、これからの将来を担う子供たち、住んでる人、そういったところに大きな影響が出てくるんだという、そういう意識を持っていただくこと。行政側としてもやはりこのままいくとどうなるんだよという、そういうデータ提供をすることによってみんなで考えていく体制づくりというのが一番重要なことかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

成果を求めるということになると、1つの考え方として株式会社系魚川市にするぐらいの気概を持った取り組み、体制を構築しないとなかなか変革できないんじゃないかなというふうなことも感じるわけですが、私はこの地方創生は行政を初め、まず公共的な組織団体がまず変革すること。それから、本気を見せること。これが必要だというふうに思うわけであります。

したがって、この時期は、この総合戦略を意見や提案を求めた組織団体にきちっとする。国から、まだそれについての反応がないわけですけども、この段階で実施段階に向けた進め方の説明、あるいは成果を上げるための戦略を描く必要があると思うんですが、その辺の段取りについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

まずは、職員がやはりこの総合戦略というのをしっかり理解する必要があるというふうに思っています。そういう中で、日々仕事の中でいろんな団体と話し合う機会がある。そういう際に話を継続していく必要があると思ってますし、そういう機会をやはりこれからどんどんふやすような形に持っていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

じゃあ、2点目の産官学金労言に関してであります。

総合戦略の完成版ではですね、事業名と行政の担当部署が明記されておりますけども、産官学金労言の皆さんが策定に当たって、どの部分でどのようにかかわっているのか、なかなか見えないんですね。我々、委員会でいただいた資料の一部にはそれが、かかわった部分というのはちょっと見える資料もございましたが、この完成版を見る限りには、その辺がよくわからないんですけども、この意見、要望、提案、参画というふうに分けた場合ですね、産官学金労言の方々からどんな対応をさせていただいていたのか、言葉ではなかなか何というか、対応し切れないと思うんですが、それをどのように対応されてるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

今回、計画をつくるに当たって、各種団体であったり、審議会であったり、また地区の懇談会であったりということで、合計すると約50団体、回数にすると65回ということで1,000人以上の方からいろんな意見をお聞かせいただいております。最終的には、それら出てきた意見を会議録なり要望事項なり、まとめて各課のほうにも配付する中で、それらを計画のほうへ盛り込むというような形で、全てが全て盛り込めたわけではないとは思ってますけれども、そういう形で総合戦略のほうを組み立てております。

また、各団体のほうからも自分の団体では、こういう形でというようなものも出てきたものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

細かいことを言えばですね、この今回の産官学金労言でありますけども、これからそれぞれの組織や団体に何を求め、何をお願いしていくのかというふうなこと。産官学の連携というのは、今までいろんな面で言われておりましたのでよくわかるんですけども、金労言ですね、今回。この金融に関して、労働に関して、言論に関して、こういう方たちにどういうふうにこの地方創生の取り組みをお願いをしていくのか、ここの辺を少しお聞きをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

産官学金労言というのは、広くいろんな人たちの意見を聞いてということが入ってきてると思います。やはりその中では、やはり行政だけでやるんじゃないよという、それぞれの立場、それぞれの役割、そういうものをみんなで考えてそれぞれ役割分担する中で進めないと、この人口減というのはしっかりとできないという中で出てきたものと考えております。その中では、金の金融機関の部分でいきますと、今回市内の金融機関と連携協定を結んだわけですがけれども、その金融機関独自の地方創生の取り組みとして、健診結果で利率がアップするとか、空き家として登録する際の修繕費の借入利率を引き下げる、そういった新たな取り組みも出ていることも事実であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

国が考えていることは、この金というのは、やっぱり銀行とか信用金庫等の金融機関が地域経済等に関する情報提供や分析力によって金融機関のノウハウやネットワークの活用が期待できるというふうなことです。それから労については、労働組合で女性の就労率を高め、女性の働き方を変えることは男性の働き方を変えることであり、それは労働協定などに直結するというようなこと等も期待をしているようですし、また言論機関に関しては、地方から情報発信をどういうふうにしていくのかというふうなことで、それぞれの分野の力を借りようじゃないかというふうなことであつたかなというふうに思います。

それから、9月の議会で藤田課長はですね、多分、行政がつくる計画で、これだけ多くの団体と意見交換をしてつくった計画は、今回が初めてではないかと思ってる。やはりそういう意見交換する中で行政が気づく部分、また各団体が気づく部分、そういった部分があるかと思っているというふうに答えておりますが、今回のこの意見交換で終わるんじゃなく、今度は実践の場でどのようにかかわっていただけるのか、その辺がですね、ほんとに我々は見せていただきたい、その辺は教えてもらいたいというのが、きょうのお願いなんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

確かに、計画をつくるまでの意見交換だけで終わらせてはいけないというふうに思っております。実践する段階においても、市が実践する事業もあろうかと思えますけれども、各団体が直接実施する事業もあろうかと思えますので、それぞれが意見交換、情報共有する中で進めていく部分が非常に重要になると考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

その点では、お隣の上越市ですけれども、上越市のまち・ひと・しごと創生推進協議会、これを組織して、各構成団体56団体がですね、地方創生に向けた各団体の事業というのを提出して4つ

の分野で取り組むと。そして、非常に理想的なスタイルだなと思ったのは、この総合戦略をまとめて、今度推進もほぼ自動的に進められる体制なんですね。自分たちがこういうものをメニューとして出します。それから、いわゆる目標値もこういうふうに出すと自分たちで宣誓しているようなものなんですね。したがって、推進も自分たちが責任を持ってするという体制がとれてるんです。こういう形をですね、今からでも遅くないんで何とかしてつくれませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

形態というのは、それぞれあるかと思いますが、そういう形での取り組みに持っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それでは、3番目のチーム系魚川に関してでありますけども、私本当にこのチーム系魚川には大変期待をしております、今までの活動状況を知りたいと思っております。いろいろ調べてみてるんですが、なかなかこう見当たらないんですね。時々議会で議員との一般質問のやりとりもあるものですが、議事録等でも把握をさせていただいておりますけども、このチーム系魚川がですね、もっとこう、市民に見える活動であったり、またその活動の状況を情報提供いただけると、大勢の参加が得られますし、広がっていくんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

チーム系魚川発足して、もうすぐ2年が過ぎようとしております。現在については、25団体から参加していただいております、白紙の状態からスタートして、定住人口の維持と交流人口の拡大により、30年後も持続可能なまちづくりを目指すという目的のもとで、できることからスタートしたというのが現状であります。昨年については、系魚川応援隊や新幹線開業に向けた取り組み、メーリングリストによる情報交換を進めてまいりましたが、来年度以降の取り組みについて、もう少しレベルアップしたいと思っておりますし、そういう中で情報提供というのをもう少しオープンにしていけたらいいのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

平成25年度、26年度の事業計画では、系魚川市全体のチームワークを高める活動というふう

な、さらにそこを詳しくというのがちょっと見れてないんですが、具体的にどのようなことを実施されて、どのような成果が上がってるのか伺いたと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

チーム系魚川の活動としては、先ほど説明したとおり、新幹線開業に向けた取り組みとして駅前に花のプランターを設置したり、それから系魚川応援隊の会員獲得の活動ということで、系魚川応援隊についても11月末現在で約1,400人までふえたという形になっております。今年度は、新たな取り組みとして、この総合戦略について意見交換の場を設けておりますし、来年度については、それらをもう少しステップアップしたような形に持っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

事業計画の話の中で、私やっぱり全面に人口問題などが事業計画にばちっとう明記されて、目的がわかりやすいというふうなものであるのかなと思ったんで、ちょっと弱い気がしますね。今回、今年度の事業計画では、この地方創生系魚川市総合戦略への参画というふうに、これわかりやすいですね。その中で30年先も持続可能なまちを目指して系魚川市総合戦略策定に向けた官民連携協議へチーム系魚川として参画するというふうなことでありますので、それはわかるんですが、じゃあこの策定には具体的にどのようにかかわってきたかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

人口ビジョンの素案とか総合戦略の素案ができた中で、そういったものを説明する中で、意見や提言をいただく中で、総合戦略の策定のほうにかかわってもらっております。そういう会議の中では、1つちょっと気になったのは、やはり今まで市がいろんな施策を実施してきたわけですが、やはりそういったものを結構知らない方も多く見られたということで、そういう面では、市の事業PRという、そういったものももう少しわかりやすくする必要もあるのかなと思っております。

また、会議の中では、もう少し具体的な施策の検討、そういったものも進めるようになってほしいという要望も出ておりますので、次年度に向けてはそういった部分についてもチーム系魚川で取り組めるような形に持っていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

今、課長もおっしゃってはいるんで、わかるんですけども、この地方創生の目的とチーム系魚川の目的は同じなんですよ。ここはやはり先導して取り組む組織ということで強く打ち出していたいてですね、地方創生と言えばチーム系魚川と言われるような体制にまで持っていったきたいというお願いであります。

それから、どうも最近感じますのはですね、新規の事業を取り込んで実施する場合ですけども、このキャッチフレーズをつけて事業展開をするわけなんですけども、このキャッチフレーズがひとり歩きして、なかなか成果が見えないものが多いような気がしますよね。いわゆる宣言したり目標設定したら最大限の努力、これをしなければならぬわけですし、成果を上げなければならぬのは当たり前だと思うんです。

したがって、このチーム系魚川もですね、30年後も持続可能なまちを目指すということで、賛同して集まったメンバーでありますし、皆さんそれぞれ力があるわけですので、その力を系魚川市の未来のために発揮をしていただきたいというふうに強く思っております。

次に、4番目の各行政区及び地区公民館に関してでありますけども、この住民懇談会ですね、この懇談で得た意見とか要望、これをどのように総合戦略に反映させることができたのかどうか。特に、この地域づくりプランを何力所かで策定しておりますけども、この総合戦略とのかかわりの中で、この地域づくりプランが、それがそのままその地域の総合戦略に反映させることができたかどうか、その辺ちょっと伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

地域づくりプランの策定してる地区についてはですね、やはり地域の方が、その地域をどうしたいかと、どういう問題があるか、それから今後どうしていけばいいかということで、地域づくりプランを策定させていただいております。そういった意味からですね、やはり今後の将来この地区をどうしたいかという意見等がやはり出ておりますので、その辺については、やはり総合戦略プランの中で、今後実践をしていくというような形で考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

私、この人口とか世帯数、それからハード面に関しては、行政でもその地区の状況はつかめるわけなんですけども、ソフト面ですね、生活実態というようなことになると、なかなかつかみにくい。そこで、最低区長さん方にアンケートとか地域のチェックシートですか、カルテといったようなものを作成をお願いして、地域の強いところ、弱いところ、こういうものをやっぱり確認して地方創生にやっぱり生かしていただきたいと、こういうふうに思っておったんですけども、その辺のこの調査とか対応はされて、創生に生かしていただいているかどうか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

過去には高齢化が進んだ集落の調査とか、それからひとり暮らしの方を訪問しての調査という形で調査した結果がありますので、そういったものも参考にして計画のほうは策定しておりますけれども、ただもう1つは、やはり地域づくりプランというのは、21公民館単位での、ある意味総合戦略の縮小版というふうにも考えられるんじゃないかなというふうに思っております。そういう意味では、地域づくりプランの策定に向けて、地域の方が自分の地域のことを一生懸命考えて進むべき方向を出す。それに対して行政のほうも支援をしていくという、そういったことが重要なのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

総合戦略が、完成版ができたんですけれども、今後、実践の段階で各地区に具体的にどのようなお願いを、対応を求めていくのかを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回、人口ビジョン、総合戦略を策定しております。特に人口ビジョンの中では、21公民館単位で、このまんまの状態であれば各地域の人口というのは将来こうなるんですよという形でお示しをしております。やはり市でつくる総合ビジョンというのは、市全体のビジョンでありますけれども、各地域になると、やはり各地域で真剣に考えていただくということが一番重要なんでないかなと思ってます。特に最近、1%回帰論というものがあります。人口の1%の人が移住してくれば、その地域の人口というのは将来的にも維持できるという、市全体で考えると4万5,000人の1%というのは、450人ということで、結構大変な数字なんですけれども、中山間地の数字で捉えると毎年1人とか、2年に3人とか、そういった数字になろうかと思っておりますので、そういったことも含めて地域でしっかり考えていただけるような意識醸成、そのためには行政側も資料やデータ、それから支援、そういったものが必要になるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

地域でもですね、この人口問題がこれだけいろいろのところで出てくるもんですから、かなり問

題意識は高まってはきております。

それから、公民館の活動の関係ですが、地方創生のその考え方そのものは公民館にも求められているという、公民館活動等にも求められてると私は思うわけなので、この地方創生実施段階での各地区公民館の役割、こういうものをやっぱり明確にして取り組んでいただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

渡辺議員おっしゃるようになりますね、地域づくりプラン等、地域の活性化を進めていく上で地区公民館の役割というのは非常に大きいと思っております。そういう中におきまして、次年度に向けては、市長部局の、後ほど質問の中にでも出てまいりましたが、集落支援あるいは地域づくり協力隊というものが定住促進課で、今、配置しておりますけれども、地域づくりプランを進める、あるいは策定に取り組んでいるというようなところについてはですね、定住促進課の集落支援員、それから地域おこし協力隊、これをそれぞれの地区公民館に配置して結びつけていくというような取り組みも新年度に向けては検討しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、集落支援員等の話も出てまいりましたが、5番目に移りますが、この集落支援員に関してですけれども、特に目的としてはですね、地域の維持・活性化を図っていくことを目的にするというようなことでありますけれども、この現時点で担当地区の維持と活性化に関して、特にそれに特化したような動きというのはされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今は集落支援員の活動といたしましては、やはり集落内の巡回、それから声がけ、それから事業等の実施についてのお手伝い等をしております。

ただ、ステップといたしましては、今の声がけ等からやはり課題の認識、それから関係機関との連絡、情報提供、それをまたステップアップして地域内での話し合いや交流、最終的にはですね、やはり問題解決に向けた地域活性化の支援等までできるような方向に進んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるとおりなんですけども、集落の点検、それから話し合いの結果、これを踏まえて逆に実施しなければならない集落の維持、活性化対策、こういうものが必要になってくると思うんですが、実際そういう形の中から対策を講じて、あるいは講じたいんだというものがあるのかどうかお願いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

集落の活性化に向けてはですね、今取り組んでおるのが、例えば高齢者サロンの立ち上げだとかいって、お年寄りの方から出てきていただいて、いろいろお話を聞いたり、体操したり、健康維持に努めたりとか、そういうものの取り組みは一応行っております。

ただ、今後いろいろ中山間地域についてはですね、人口減少に伴っていろいろな問題が出てくると思います。例えば除雪の関係だとか、雪掘りだとか、雪屋根おろしだとか、そういうものの問題も出てくると思います。その辺については、今後、集落支援員で何とか対応ができるのかどうなのか、その辺のところも今後、検討していく必要があるんじゃないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○ 4 番（渡辺重雄君）

集落支援員の皆さんは、精いっぱい頑張っていらっしゃるんですが、なかなか何というか目的がはっきりしてないところもあるもんですから、なかなか自分たちで逆にこれでいいのかなというふうな自問自答してるところもあるように伺いますので、いわゆる情報を共有して取り組んでいただきたいなというふうな気がします。

6 番目の若者会議の設置の提案についてでありますけども、地方創生の第一人者であります増田寛也氏ですか、地方創生の切り札は、「よそ者」、「馬鹿者」、「若者」であるというふうに言っておるわけですが、よその地域からやってくる人、若い人、そして馬力のある人、これが変化を起こしていくんだというふうにも言っておりますが、私はまず地元にいる若者をどのように、この地方創生の議論の場に参画していただき、中心になっていただけるかということだと思うんですけども、この総合戦略の作成段階でのかかわり、先ほど青年会議所等かかわっているんだというふうなお話ございましたが、もう少し詳しく、どのようにかかわられたか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今回の総合戦略を作成するに当たって、各地域へ出向いたわけなんですけども、その中では、やはり

年配の方、それからある程度お年をとった方しか出席がされなくてですね、そういう方については意見をいただいておりますが、そういう中では地域の若者の意見というものが今回あまり反映されていないというような状況の中から、これではやはりまずいのではないかということで、先ほど申し上げたとおり若者の会議をつくってですね、若者がどのようなことを考え、どのようなものを思って、これからどういうことをしたいのかということをやはり知るべきだと。またやっとなければいけないということで、第1回として青年会議所と市の若手職員の意見交換会を行ったわけですが、その辺のところを生かす中で、やはり今後、各地区等で若者の会議を行う中で、やっぱり意見等を反映させていくことが必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

かつては、どこの地域にも青年会とか青年団というのがあって、地域の中心になって活動していたもんですね。当時は、地域の必要な組織でありましたし、また若者に委ねられた事業や仕事ですね、これも半ば義務的な感じのものだったんですけども、なくなってから、この若者の意見すら聞く機会がなくなったと。そして、若者と地区のつながりもほとんどなくなっていると。このかつての青年会・青年団というような形は違っていいんですけども、若者を地域の主役にする、こういうことも地方創生の大きな取り組みだというふうに私は思っているんですが、今、課長が青年会議所と市の若い人と話し合い、懇談をしたということなんですが、それをぜひ広げて、地域全体に広げていただきたいと思いますというんですがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

議員おっしゃるとおりでありまして、各地区にやはりそういう若者の会議等をつくってですね、やはりそこから意見等を吸い上げ、また若者が活動していただいて、地域のリーダーになっていただくというようなことまでやはり行けたらいいなというふうに考えて進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

全国では、若者を地域づくりに参画していただく方法として、さまざまな手法を講じておるんですが、これ一例ですけども、愛知県の新城市では、若者会議じゃなく、名称は若者議会ということなんですが、設置しておりまして、少し紹介しますとですね、若者条例の制定、市長の諮問機関として若者議会の設置、若者総合政策策定と続いておりまして、今回の地方創生では高校生が地方創生に取り組んでいるというふうなことです。特に、来年から18歳から選挙権が与えられますし、その分、責任も出てくるわけなんで、糸魚川市としても大いにその責任を発揮していただくために

も若者会議を創設してですね、いろんな出番を考えてあげるといふうなことも我々の役目ではないかなというふうに思っとるんですがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

そのとおりであります。若い人が物事を考えて、それを実践するということでもあります。その実践について、やはり市も支援するという形をとっていたというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

7番目の市民大学制度の導入の提案でありますけども、3月の一般質問で米田市長は、この件について一番大事なところであり、研究させていただき、取り組まさせていただきたいと。ただ、育成できる機関、機能や制度について、つくれるかを検討させていただきたいという答弁をいただいておりますが、特別な大きな予算を必要とするものではないんじゃないかなと私は思ってるんで、ぜひ来年度から導入していただきたいなというふうな思いを持ってるんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1回目の答弁にお答えさせていただいたように、今、地域の中においては、上南地域で今、取り組んでいただいておりますので、それを見させていただく中で、それが拡大できるかなと思っております。やはり地域に根づいたものでなければいけないという感覚があったからそのような考え方を持っております。即やれるものだったら取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

市長、今おっしゃるとおりですね、既に生涯学習での講座、それから出前講座等でもまちづくりに関する学習等も行われておりますので、最初はこれらを整理して市民にわかりやすく入り込みやすい仕組みをつくっていただだけでも、スタートの段階では本当にいいんじゃないかなというふうな思いをいたしておりますが、担当のほうはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今ほど市長が述べましたように上南大学、上南地域でやってる大学名でありますけども、私これ見まして、ネーミングも大変すばらしいものもありますし、地域でみんなで学ぼうという姿勢があらわれているのかなというふうに思っております。上南大学の内容については、ことし7月の17日に県の公民館大会が聖籠町で行われまして、伊藤館長からその取り組みの報告をされたところであります。公民館のさまざまな活動そのものについては、「集う、学ぶ、結ぶ」という大きな3つの大原則があるわけでありまして、今、議員おっしゃられますように、とにかく学ぶ、集う、学ぶといいますが、生涯学習の学習の点に重点が置かれてまいりましたけれども、今後、結ぶという地域の活性化を図る上で、いろいろな団体と協力をし合いながら地域の課題に取り組んでいくという姿勢が必要だなということでありまして、この上南大学につきましても、そういう第一歩であるかなというふうに思っております。今後、こういうところのモデルを活用して、21の公民館全体で共有するような取り組みを図ってもらいたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

お隣の上越市では、長年、市民まちづくり大学ということで、まちづくりに特化したカリキュラムを持っていっているようですけども、内容を見てみますと、地域活動、市民活動をするに当たっての基礎的なことを学ぼうということですね。この大学によってオピニオンリーダーが大勢輩出されていたり、NPO活動が盛んなんですね。それから、外から転入された方たちが受講されて、地域に入りやすいというふうな効果が結構あるというふうなことも聞いております。

したがって、地方創生の大きな役割を果たしているんじゃないかなということで、こちらのほうもぜひ参考にさせていただきたいというふうに思います。

それから、いずれにしても、これからの将来を見据えた場合、今回の地方創生の総合戦略を描いた戦略どおりに進めなければならないわけですし、それには行政も組織団体も、そして我々市民も地方創生を自分事として受けとめて進めることが一番大事だというふうに私は思っております。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

○20番（古畑浩一君）

おはようございます。奴奈川クラブの古畑浩一でございます。

これより一般質問をさせていただきますが、本日冒頭、一般質問に先駆けまして、教育長の突然